

## 実践報告

# 看護基本技術の修得レベル向上をめざした取り組み —学生の自己評価とその支援をめざしたポートフォリオ作成—

小笠原広実, 寺島久美, 山岸仁美, 橋口奈穂美, 山岡深雪, 壹岐さより,  
甲斐鈴恵, 日高真美子, 高尾千賀子, 中原由美子, 栗原保子

### 【要旨】

看護基礎教育課程における教育の質の向上をめざし、本学では中期目標・中期計画（平成21-26年度）に、「看護専門職者として、自立的に判断し、かつ状況対応能力と看護実践能力及び看護実践を評価する能力を育成する」という目標を掲げ、取り組んできた。その取り組みの一貫として、学生の看護基本技術の修得レベルをより向上させることを目的に、平成23年に看護技術ワーキンググループを立ち上げ討議を重ね、成果の1つとして、看護基本技術ポートフォリオを作成した。そこで、この作成のプロセスを報告する。

まず、専門領域ごとの看護基本技術の項目別の学修内容の全容の可視化に取り組み、学修の積み重ねが可視化できるように、看護基本技術の到達目標の明文化を行った。次に、看護基本技術の学修プロセスの全容と関連を検討し、概念図を作成した。全専門領域で活用できる看護基本技術の到達レベルの評価視点と評価基準を作成し、さらに各専門領域で取り上げている看護基本技術項目について再検討と精選作業を行った。そして、学生が学修過程において看護基本技術の修得状況を自己評価し、学生自身が看護基本技術修得上の課題を設定して自己学修を主体的に進める力を身につけ、卒業までに必要な到達レベルに達することをめざした「看護基本技術ポートフォリオ活用ガイド」を作成した。

領域を超えた討議を重ねる事で、各領域で積み重ねられてきている教育内容を再確認し可視化できたと考える。今後は、学生自身が本ポートフォリオを主体的に活用して、看護技術修得過程をたどれているか評価し、内容を洗練させていくことが必要である。

**【キーワード】** 看護基本技術, ポートフォリオ, 自己評価, 到達目標, 看護実践力

---

Hiromi Ogasawara, Kumi Terashima, Hitomi Yamagishi, Nahomi Hashiguchi, Miyuki Yamaoka,  
Sayori Iki, Suzue Kai, Mamiko Hidaka, Chikako Takao, Yasuko Kurihara : 宮崎県立看護大学  
Yumiko Nakahara : 宮崎県立宮崎病院

## I. はじめに

地域社会の様々な分野で看護の役割を果たし、人々の健康生活の向上に貢献できる看護職者を育成するためには、看護基礎教育課程における教育の質を向上させ、卒業時に必要な看護実践力を修得させると共に、生涯にわたって自己評価しながら質の高い看護を探究できる能力を獲得させておくことが必要である。

本学では、学生の看護基本技術の修得レベルをより向上させることを目的に、3年前に看護技術ワーキンググループ（以下、WGとする）を立ち上げ討議を重ねてきた。卒業時の到達目標を見据えて、学生の看護基本技術の修得状況に応じた個別指導を行なっていくためには、学年進行に合わせた学生個々の修得レベルの可視化と、修得過程を教員間で共有することが必要であることから、看護基本技術ポートフォリオの作成に着手した。WGでは、学生が在学期間を通して看護技術を自己評価しながら成長でき、教員においても個々の学生の成長を捉えながら指導に活かせるものとして、全専門領域での看護基本技術の修得プロセスが見える本学独自のツールの作成をめざしてきた。

今後、本ポートフォリオを活用するにあたり、全看護教員で意義を共有し、学生の看護実践能力の向上に向けてより効果的な活用ができることをめざして、作成のプロセスを報告する。

## II. 本学の看護基礎教育に係る背景

本学では、平成9年の開学時より、「看護の受け手は、看護職者の表現を通してその認識を受け取る」のであるから、「〈対象－認識－表現の過程的構造〉を見抜くことのできる認識（看護観）とその構造を発展させることのできる表現（看護技術）を修得させる」<sup>1)</sup>という目標を定めて取り組んできた。また、「教育評価規準」<sup>2)</sup>も示されて、全学教員をあげて一貫した教育に取り組んできた。そこで重視してきたことは、学生の自己評価能力を鍛えることであり、これは、〈自己学習－グループ学習－個別指導－自

己評価システム〉として開発・発展させてきた<sup>3) 4)</sup>。

さらに、学修の初期段階から、技術の修得過程には、〈知る段階〉〈身につける段階〉〈使う段階〉<sup>5)</sup>があることを学生に意識させ、目標を描かせて技術教育がすすめられてきた。また、看護学を教授する全専門領域が、ナイチンゲール看護論を基盤とした薄井の実践方法論<sup>6) 7)</sup>をもとに教育に取り組み、学生が継続性・一貫性を持って学修できるような体制を整えてきた。

平成21年度の本学の中期目標・中期計画（平成21-26年度）では、「看護専門職者として、自立的に判断し、かつ状況対応能力と看護実践能力及び看護実践を評価する能力を育成する」という目標を掲げ、小項目に「看護実践能力を育成するため、卒業時の到達目標を見据えて、学生の看護基本技術の修得状況に応じた個別指導を行う」を挙げた。その実現をめざし、各専門領域の教員はさらに意識して個別指導の強化を図ってきた。

教育評価を繰り返しながらすすめ、平成23年度には、「学生間、学生と教員間の相互評価能力を高める教育方法の工夫について明文化し、その成果を報告する」との年度目標を立てた。個別指導の強化を図った成果は、全専門領域の看護教員が集まる看護部会において繰り返し報告された。教員からは、「在学期間を通して学生自身が看護基本技術を修得していくプロセスを可視化できると、修得状況を意識化できて目標をもって取り組んでいけるのではないかな」「領域ごとには看護基本技術の到達度評価はしてきているが、1、2年次の基礎看護学から各専門領域\*へと、どのような技術が積み重ねられ、学生の能力がどのように発展しているのかを見ていくことで、教員自身も専門領域を越えて学生の看護基本技術の修得状況を把握でき、看護基本技術の応用能力を高めることに繋がるのではないかな」との意見が出た。そこで、平成23年9月、各専門領域教員の自主参加によるWGを結成し、WGメンバー（8名、7看護領域）を核として各専門領域の教員との検討を重ねながらの取り組みをスタートした。

\* 本稿では下記のように用語を用いている。

専門領域：本学カリキュラムの「普遍科目群」「専門基礎科目群」「専門科目群」のうち、看護学教員により構成される「専門科目群」の領域を示す。

基礎看護学領域：「専門科目群」の中の、「基礎看護学」を担う領域を示す。

応用看護学領域：「専門科目群」の中の、「基礎看護学」以外を担う領域を示す。

### III. 取り組みの経緯と内容

WGを中心として行なってきた取り組みの経緯と内容を以下に示す。

取り組み期間：平成23年9月～平成26年9月

- 1) 各専門領域での学生の看護基本技術の修得状況について情報交換を行ないつつ、専門領域ごとの看護基本技術の項目別の学修内容の全容を明らかにした。
- 2) 看護基本技術のコアとなる＜観察＞技術について、各専門領域での到達目標、学生の修得状況、教育における課題を共有し、学修の積み重ねを可視化できるように専門領域ごとの看護基本技術の到達目標を明らかにし一覧に示した。
- 3) 専門領域全体をとおして共通性の高い＜よい環境をととのえる＞技術、＜感染を予防する＞技術、＜運動・休息のバランスをととのえる＞技術、＜清潔への援助＞技術、＜食と排泄のバランスをととのえる＞技術、＜診断・治療過程への看護＞技術について、2)と同様に、専門領域ごとの到達目標を明らかにし一覧に示した。
- 4) 以上の経過で明らかになった本学における看護基本技術の学修プロセスの全容と関連を明文化し、概念図で示した。
- 5) 全専門領域で活用できる看護基本技術の到達レベルの評価視点と評価基準を作成した。
- 6) 文部科学省による「大学における看護実践能力の育成の充実に向けて」（平成14年 看護学教育の在り方に関する検討会報告）と「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」

（平成23年）を参考に、各専門領域で取り上げている看護基本技術項目について再検討を行い、精選作業を行った。

- 7) 精選した看護基本技術項目について、各専門領域での到達レベルを明らかにし、「専門領域ごとの看護基本技術の到達レベル自己評価表」を作成した。
- 8) 以上を整理し、学生が学修過程において看護基本技術の修得状況を自己評価し、学生自身が看護基本技術修得上の課題を設定して自己学修を主体的に進める力を身につけ、卒業までに必要な到達レベルに達することをめざした「看護基本技術ポートフォリオ活用ガイド」を作成した。
- 9) 看護専門領域の教員全員で共有し、最終検討を行なった。

### IV. 結果

#### 1) 全専門領域の看護基本技術の学修内容の可視化

各専門領域の教員は、看護方法の講義・演習にあたり、看護基本技術教育に関する情報を他領域の教員に個別に収集して授業に活用していたことから、WGでは、最初に学内演習や実習指導における学生の看護基本技術の修得状況の情報交換から開始した。

情報交換では基礎看護学領域と応用看護学領域との教育内容の連関の問題があがり、具体的な事実を元に検討を行なった。その過程で、基礎看護学の学修は、看護基本技術を身につける途上の段階といえるので、応用看護学領域の教員が基礎看護学領域での学修内容に重ねて、既修内容との共通性と相異性を学生に意識化させることで、基礎看護技術の定着と応用力の修得に繋がることが再確認できた。また、応用看護学領域で基礎看護技術がうまく活用できない場合、技術の定着が不十分な場合もあるが、応用看護学領域での特殊な状況にある対象の状態が掴めていないことで技術をうまく応用できないという現象も起きていることがわかり、教員が学生の看護基本技術修得プロセスの内容を十分把握しておくこと、その上で対象の状態に沿った看護技術を実施できる

ように、対象の状態を十分把握させることが前提であることを確認できた。そこで、看護基本技術修得において、まずは学生と教員の双方が4年間における全専門領域の看護基本技術の学修内容を把握する必要性を認め、基礎看護学領域で活用しているテキスト<sup>8)</sup>の項目を基準として各専門領域で行なっている看護基本技術の学修内容を整理し一覧表とした。また、臨地実習での学生指導時のエピソードを話し合う中で、＜観察＞技術の本来の目的を見失って実施されている現象がいくつか挙げられ、共通技術項目である＜観察＞技術は、特に学内演習を通して各領域で積み重ね強化していきたい技術であると確認できた。

## 2) 専門領域ごとの看護基本技術の項目別到達目標の明確化：＜観察＞技術（表1）

全専門領域の看護基本技術の学修内容の一覧ができた段階で、さらに、基礎看護学領域で学修した看護基本技術がどのように積み重ねられていっているのかを可視化していく方向性が定まった。そこで全専門領域で共通性の高い＜観察＞技術について、各専門領域で到達目標を持ち寄り共有した。その結果、応用看護学領域では、基礎看護学領域で使用しているテキストにある【看護の視点】<sup>9)</sup>を基礎として、それを各専門領域の対象の特性に合わせて強化するべく取り組んでいることが確認できた。学内や臨地実習での指導で、基礎看護学領域で既習の看護の視点を学生に想起させると、理解が早く、適切な行動がとれるようになったとの指導上の体験も多くあげられ、教員が基礎看護学領域とのつながりを意識して指導を重ねていけばより効果的であろうとの意見がまとまった。そこで、＜観察＞技術以外の技術項目についても同様に、基礎看護学領域の【看護の視点】をもとに各専門領域の到達目標を明確にしていっていった。

## 3) 看護基本技術の学修プロセスと看護基本技術学修の概念図の作成

基礎看護学領域での学びが、各応用看護学領域の特殊な条件や様々な健康障害を持つ人への看護技術として発展していっていることが見えてきたことから、

この修得過程を看護基本技術の学修プロセスとして明文化し、それらの関連を概念図（図1）として作成した。

概念図では、「どのような看護場面においても、生命を守り（安全）、日常生活を支え（安楽）、その人を尊重する（自立）、という看護の3原則を同時に満たすことが、人々の持てる力を最大限に活用している状態（健康）の実現をはかる上で不可欠な要素である」ことを前提として、基礎看護学で学ぶ《共通基本技術》である「観察技術」「安楽をはかり効率を高める技術」「よい生活環境をととのえる技術」「安全管理の技術」「感染を予防する技術」を、あらゆる看護に貫かれてコアとなる内容として円錐のトップに位置づけている。その下には、基礎看護学で学ぶ「日常生活援助技術」「診断・治療過程への看護」「生命の脅かしへの看護」と「看護過程展開の技術」をおいている。ここで学修した内容は、すべての専門領域を貫きながら、対象の様々な特殊性に応じた看護技術を提供できるように発展していく。さらに、臨地実習において、学内で学んだことを基盤として、対象者の個性に合わせて看護基本技術を応用して実施し、看護実践能力を修得していくので、以上の関係を円錐に示した。

この概念図により、各専門領域において、看護基本技術をどのように発展させようとしているのかがより明確になった。

## 4) 全専門領域共通の看護基本技術の到達レベルの評価視点と評価基準の設定

本学では、看護技術を＜看護観の表現＞として位置づけ、看護の専門職者としての判断過程とのつながりで看護技術教育を行なっている。また、看護は、対象の実体と認識への働きかけを通じて、その人の持てる力を最大に働かせる生活過程をつくりだすことをめざす実践である。従って、学生の到達レベルの評価は、各技術項目の体験の有無を問うものではなく、学生が到達目標を意識して各段階における自己評価に使えるものにする、またその際、学生が自己流に評価するのではなく、自己評価の視点を明確

に提示する必要がある。たとえば、その技術が〈できる〉ということは、対象に“三重の関心”<sup>10)</sup>を注いで実施できていることであり、患者の個性に合わせて看護基本技術を使っていこうとする意識が重要である。また、その行為が達せられたかという結果（例えば清拭を手順通りにできた、等）ではなく、技術のポイントを理解し、それを対象の条件に合わせて意識的に活用しようとしているか、その結果として対象の反応を捉え評価する必要があることを確認した。そこで、看護基本技術の到達レベルを評価する視点として、①目的を対象の位置から描いているか ②対象に合わせた説明を行い自己決定を支えているか ③対象の個性に合わせて適切に看護基本技術を実施しているか ④対象の反応を観察して事実をもとに対象の位置から評価しているか ⑤危険性を予測し、事故防止に努めたか の5つをあげた。評価基準は、1. 目的と行為の意味と実施上のポイントが不明確 2. 目的と行為の意味と実施上のポイントが分かる 3. 目的と行為の意味と実施上のポイントが分かり、指導のもとで実施できる 4. 目的の意味と実施上のポイントが分かり、一人で実施できるとした。

#### 5) 看護基本技術項目の精選と、専門領域ごとの到達レベル自己評価表の作成

1年次から卒業時まで、看護基本技術の積み重ねと、めざしてほしい技術の到達レベルが分かるように色わけをして示し、学生が自己評価した到達レベルを数字で該当欄に記入できるように、全専門領域の看護基本技術の到達レベルを網羅した自己評価表を作成した（表2）。

技術項目については、Ⅲ 取り組みの経緯と内容の6)に示した文部科学省の報告書を参考に、本学で行っている看護技術項目を精選した。

さらに、個々の看護基本技術の到達レベルの自己評価をもとに、学修の節目（2セメスター・4セメスター・臨地実習Ⅰ・5セメスター・臨地実習Ⅱ 1クール・2クール・3クール・臨地実習Ⅲの終了時）毎に、看護基本技術の修得状況と到達レベルを自己評

価して、次のステップに向けて目標と課題を明確にし、学修計画を立て記録する用紙を作成した。学生が取り組む流れを、図2に示す。

#### 6) 宮崎県立看護大学看護基本技術ポートフォリオ活用ガイドの作成

WGでは、ポートフォリオに関する文献や他大学の実践報告<sup>11) -17)</sup>などを参考にしながら、本学で入学当初から行なってきた双方向の教育方法を活かし、学生一人一人と到達度を共有しつつ、学生が自己評価できるようなものにしたいという目標を再確認した。

以上の経過を経て、学生が自ら看護基礎教育課程での看護基本技術修得の到達目標をみすえて、その時々での修得状況を自己評価し、教員と共有しながら学修支援を受け、到達度をあげていくための「宮崎県立看護大学看護基本技術ポートフォリオ活用ガイド」を作成した。

このなかには、看護基本技術ポートフォリオの目的、到達レベルを評価するときの視点と評価基準、ポートフォリオの活用方法、および看護基本技術の到達度レベル自己評価表などを掲載した。活用を始めるにあたり、看護専門領域の教員全員で、看護技術ポートフォリオ活用ガイド案について協議をする時間を設け、より有効な活用をめざした。

### V. 考察

#### 1. 本取り組みの成果

この取り組みはポートフォリオ作成を目的として始まったのではなく、学生の看護基本技術修得向上をめざして、どのように教育を強化すればよいかを考える目的で始められた。実習で陥りやすい学生の傾向を出し合い共有したことによって、WGメンバーの間では、どのように看護基本技術の教育を強化していく必要があるのかが明らかになり、また、看護学の各専門領域がそれぞれ取り組んでいた教育内容と到達目標を共有したことによって、自分の属する領域の看護基本技術の位置づけがより明確になっていった。さらに、4年間を通して行われている看護基本技術の学修内容一覧表を作成することにより、

学生が修得する看護基本技術の全容を可視化することができた。それにより、学修の積み重ねのプロセスがより明確となり意識化されていった。

討議の中でのWGメンバーの気づきは、領域ごとのミーティングに持ち帰り、すぐに講義や演習の内容の検討につなげ、到達目標の表現の微修正を重ねながら進めていった。また、文部科学省の検討会などによって示された内容を基準に、本学での技術教育の内容を比較検討したことにより、学士教育で必要とされている内容がすべて網羅されていることを確認でき、その上で本学の教育に即した項目を追加することができた。

このように、WGでの討議が比較的スムーズに進んだ要因として、本学では、すべての専門領域での教育が薄井の実践方法論を基盤として行なわれていたため、専門領域が異なっても、到達目標に共通性が高く、互いの内容を理解しやすかった点があげられる。

また学生は、1年次から看護技術教育で、自己の修得状況を認識と表現の両面から客観視し自己評価することが習慣化されている。これは、看護者が対象に向かい合った時、対象側の事実に対して（science）最善の方法を工夫する（art）ことができるために、訓練（training）と修練（discipline）が必要であるとのナイチンゲールの教育観<sup>18)</sup>を土台に、学生たちが、自らをより高く伸ばそうとする志をかがげ学びつづける心を鍛えることをめざした取り組み<sup>19)</sup>である。今回、全専門領域に共通する看護基本技術修得の自己評価の視点を明確にしたことにより、一貫して到達目標にそって客観視をすることが促進され、有効にポートフォリオを活用できるのではないかと期待できる。さらに、教員も同様の視点で指導を積み重ねてきているので、これまでの指導方法を活かしていくことができると思われる。

## 2. ポートフォリオ活用により期待される効果

今後、このポートフォリオを活用することによって期待される効果として、以下の点があげられる。

- 1) 学生は、在学期間を通して1年次の基礎看護学の技術演習からの積み重ねで、看護基本技術の能力が向上していることを客観視できる。各専門領域での学びがバラバラではなく、連続性を持っていることがより意識化できる。
- 2) セメスターや実習の節目ごとに看護基本技術の修得状況を自己評価しながら進み、卒業前にも自己評価をすることができるので、看護専門職として自立する自信にもつながり、かつ卒業後の目標や課題も見出しやすくなる。
- 3) 到達できていないところだけではなく、すでに修得できている部分についても客観視しやすく、教員も意識的に学生にフィードバックすることによって、看護基本技術の定着と強化につながる。
- 4) 学内演習や臨地実習を指導する教員が、学生個々の成長過程を知って到達レベルに合わせた指導が可能になる。
- 5) 教員は、各専門領域の連関を理解でき、他領域での学生の修得状況を捉えることができるので、教育評価に活用できる。

## VI. おわりに

本取り組みを通して、本学で開学以来取り組んできた教育の意義と、それによって蓄積されてきた各専門領域の教員の連携力を改めて確認することができた。今後、本ポートフォリオを活用しながら、学生たちがより効果的に卒業時に必要な看護実践力を修得でき、生涯を通じて自己評価しつつ看護実践力を向上させていく能力を獲得する意志をもち続けられるよう、さらに教育の質の改善に努めていきたい。

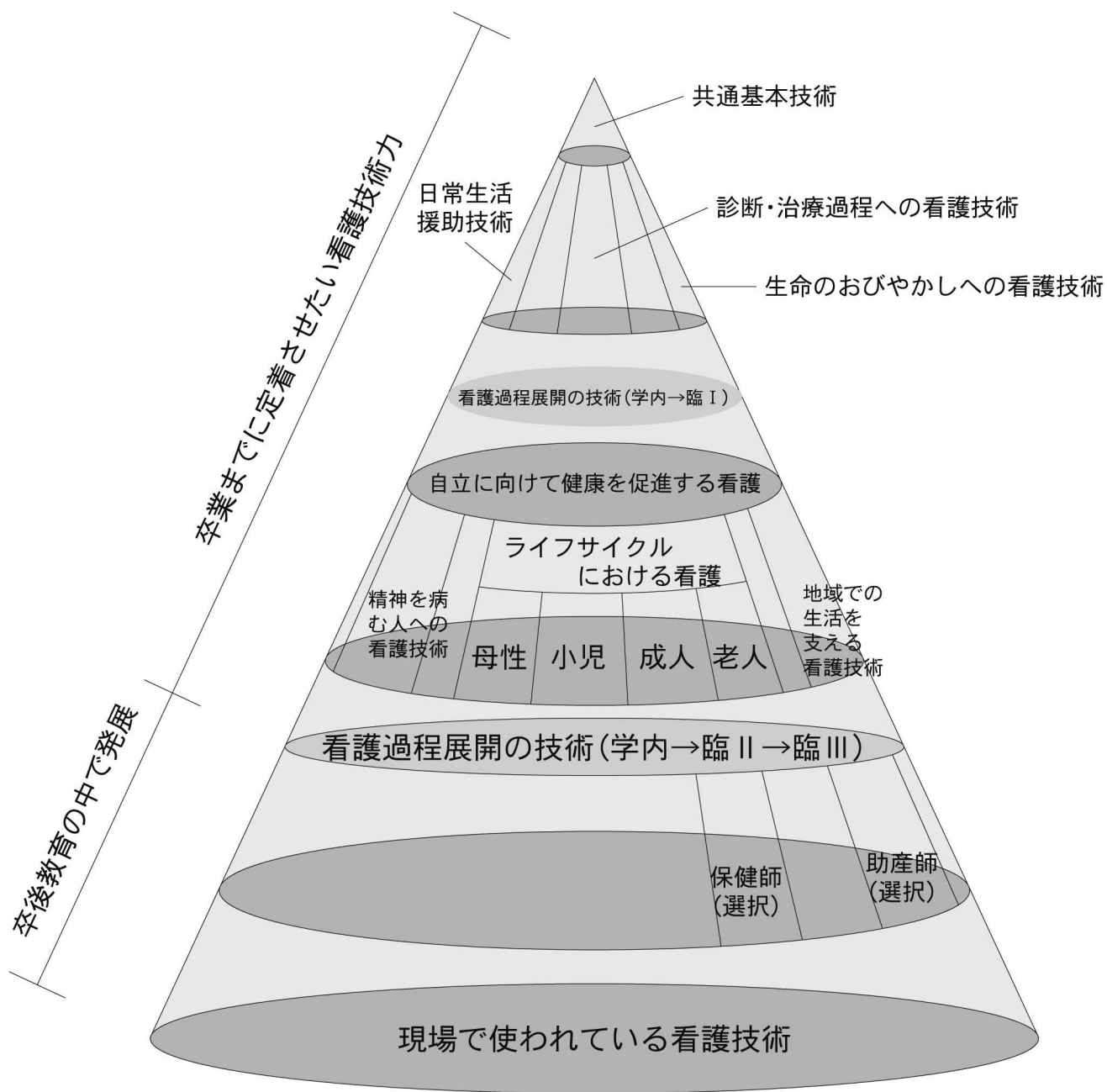


図 1 看護基本技術修得過程の概念図



表1. 専門領域ごとの看護基本技術の項目別到達目標：＜観察＞技術

基礎看護学	精神看護学	家族看護学Ⅰ：母性	家族看護学Ⅰ：小児	家族看護学Ⅱ：成人	家族看護学Ⅲ：老人	地域看護学
<p>1. 「観察とは」「観察技術とは」の前提をおさえ＜看護するため＞という目的をもつて情報を得ることを理解する。</p> <p>2. 健康状態についての客観情報や、主観を想像するための情報を集め、主観・客観を統合し立体的な全容を描き、対象の個別的な生活過程の裏像に近づく観察技術を目指す。</p> <p>3. バイタルサイン測定技術について</p> <p>①細胞のつくくりかえのプロセスが繰り返され、人間生命が維持されるには、「循環」「呼吸」「体温」の機能が正常に働くことが必要であることを理解する。</p> <p>②人間の生活一般をもとに、健康にとつての「循環」「呼吸」「体温」の必要条件を理解する。</p> <p>③「循環」「呼吸」「体温」をとのえるための看護の視点を理解する。</p> <p>④脈拍・血圧・呼吸・体温測定は生命活動の状態をアセスメントするための観察技術であることを理解する。</p> <p>⑤生理的変動因子の影響を理解する。</p> <p>⑥身体内部構造と重ねて測定のポイントを描ける</p> <p>⑦正確に安全に安楽に、脈拍・血圧・呼吸・体温測定ができる。</p> <p>⑧得られた測定結果と正常値をもとに、対象の日常生活状態とのつながりでの健康状態をアセスメントしようと取り組む。</p> <p>⑨設定患者のバイタルサインを測定し、アセスメントした上でケアを実施する。</p> <p>⑩設定患者の状況を、生命を維持する過程を整えるための必要条件にてらして観察し、看護の視点を注いで判断する。</p>	<p>1.精神の病を持つ患者の特殊性と観察の視点を理解する。</p> <p>①治療の向精神薬により、脳の機能や自律神経系に重大な影響を及ぼすため小児に不眠や苦痛を最も身に付ける。</p> <p>・対象への不眠や苦痛を底長・腹部触診を行う視点を保持。</p> <p>・各時期すべて生理的なものでありながらも異常を逸脱しやすさという特徴を逸脱し、目の前のデータから過去、現在、未来という視点を持ってアセスメントできる。</p> <p>・各時期の対象への影響を考えながら、心のあり様を予測するための情報を観察できる。</p> <p>・観察したことやアセスメントを活かしながら、出産に向かう心身であることを重ねてこれからの状況を予測できる。</p> <p>・乳房・乳頭について理解し、観察する時期やケアの方法を考え実施できる。</p> <p>2.胎外生活への適応過程において生じる生理的な変化を理解し、観察の視点を理解できる。</p> <p>2.観察や計測を行う時にも、患者が看護者との関わりに安心感を持ち、人間関係を快と感じられる体験をすることができるよう取り組める。</p> <p>3.看護者が観察を行うとともに、患者自身が自らの身体の調子に目を向け、不調を整えようとする気持ちを高める援助の重要性を理解する。</p>	<p>1.妊娠・分娩・産褥各期における対象の変化を理解し、観察の視点や測定技術を身に付ける。</p> <p>・対象への不眠や苦痛を底長・腹部触診を行う視点を保持。</p> <p>・小児は言語機能が未発達であり、言葉での表現が不明確である。</p> <p>③成人より症状の進み方が速い。</p> <p>④環境や個人の条件によって変動しやすく、不安定である。</p> <p>2.観察や計測の技術を子どもに合わせて実施できる技術を身に付け、得られた情報をアセスメントし、一般状態の変化に気づくことができる。</p> <p>・各時期の対象への影響を考えながら、心のあり様を予測するための情報を観察できる。</p> <p>・観察したことやアセスメントを活かしながら、出産に向かう心身であることを重ねてこれからの状況を予測できる。</p> <p>・乳房・乳頭について理解し、観察する時期やケアの方法を考え実施できる。</p> <p>2.胎外生活への適応過程において生じる生理的な変化を理解し、観察の視点を理解できる。</p>	<p>1.小児の発達段階や健康レベルに合わせた健康状態の観察の視点を理解する。</p> <p>①発達段階にあった正常値を把握する。</p> <p>②小児は言語機能が未発達であり、言葉での表現が不明確である。</p> <p>③成人より症状の進み方が速い。</p> <p>④環境や個人の条件によって変動しやすく、不安定である。</p> <p>2.観察や計測の技術を子どもに合わせて実施できる技術を身に付け、得られた情報をアセスメントし、一般状態の変化に気づくことができる。</p> <p>・各時期の対象への影響を考えながら、心のあり様を予測するための情報を観察できる。</p> <p>・観察したことやアセスメントを活かしながら、出産に向かう心身であることを重ねてこれからの状況を予測できる。</p> <p>・乳房・乳頭について理解し、観察する時期やケアの方法を考え実施できる。</p> <p>2.胎外生活への適応過程において生じる生理的な変化を理解し、観察の視点を理解できる。</p>	<p>1.糖尿病患者の特徴を理解し、血糖コントロール状態や合併症の状況を把握できる。</p> <p>2.腎不全で透析療法を受けている患者の特徴を理解し、検査データから腎機能や内部環境の状態を把握できる。</p> <p>3.化学療法や放射線療法を受ける成人の特徴を理解し、副作用の、症状や検査データや生活への影響をアセスメントできる。</p> <p>4.周手術期の成人の特徴を理解し、回復過程をアセスメントできる。</p> <p>①術前検査データから身体状況と手術侵襲から回復する力をアセスメントできる。</p> <p>②患者・家族の手術への意思決定への揺らぎや疑問・不安をキャッチし、支えていく必要性を理解できる。</p> <p>③術後、呼吸・循環・体温・創傷治癒過程を把握し、患者・家族の苦痛や不安等の認識を知るための観察とアセスメントができる。</p> <p>④呼吸の観察（視診、触診、聴診）のポイントを描き、実施できる。</p> <p>⑤腸蠕動音を聴取できる。</p> <p>5.救急時の成人と家族の観察の視点を理解できる。</p>	<p>1.ライフサイクルの最終段階としての老年期を生きて人の特徴を理解する</p> <p>①老化とは、加齢(老化)による変化、身体的・精神的・社会的な変化、健康や日常生活活力・自立生活力への影響がみられる。</p> <p>②「認知症」と早期認知症の発見・脳機能保持への対応が必要となる。</p> <p>③「摂食・嚥下障害」が、低栄養、脱水、誤嚥性肺炎、褥瘡などの合併症や窒息など生命を脅かすことにつながる。</p> <p>④「食」では、口から食べる楽しさが奪われることでQOLが低下する。</p> <p>⑤身体機能の低下や「排泄障害」は、耐久力低下や閉じこもり、社会とのつながりが希薄になるなど悪循環に陥りやすく、IA DL低下につながる。</p> <p>⑥「関節可動域の変化」、 「転倒・転落」や脳血管疾患の後遺症は、ADLの質低下や要介護問題につながる。</p> <p>2.生活リズムや自立生活拡大に影響する健康問題と生活リズムの回復、自立生活拡大促進、介護予防ができるよう取り組める。</p> <p>3.身体機能や認知機能低下の早期発見に必要な検査・治療処置について知り、身体機能・脳機能保持・増進への対処法を理解する</p> <p>4.高齢者の住み慣れた地域での生活を支える家族や地域のケアシステムについて理解する。</p> <p>5.老年期にある対象に関するトピックスをとりあげ、保健・医療・福祉の現状と多職種との共同および協働について理解する。</p>	<p>*地域看護論Ⅲ（在宅看護論） 各領域の学習内容を統合し、療養者の健康状態及び在宅環境の特徴や地域の状況とらえ、潜在的、顕在的な健康課題を見いだすことができる。</p> <p>*地域看護方法 ライフサイクルの各期の特徴を理解し、個一家族一地域という視点から健康を阻害している要因、促進している要因を見出すことができる。</p>

表2. 専門領域ごとの看護基本技術の到達レベル自己評価表

評価基準 4. 目的の意味と実施上のポイントが分かり、一人で実施できる  
3. 目的と行為の意味と実施上のポイントが分かり、指導の下で実施できる  
2. 目的と行為の意味と実施上のポイントが分かる  
1. 目的と行為の意味と実施上のポイントが不明確

※空白欄は、学修しない項目を示す。配布用は、評価基準ごとに色分けして示した。

履修科目		領域別看護方法 (学内演習)										地域実習 II					地域実習 III	(選択)卒前シミュレーション演習	
		基礎看護方法 (学内演習)		看護方法 (学内演習)		地域実習 I	領域別看護方法 (学内演習)					地域実習 II							
		2	4	成人	4	母性	小児	成人	老人	精神	在宅	地域	母性	小児	成人	老人			精神
共通基本技術	観察技術	領域セメスター		成人	4	母性	小児	成人	老人	精神	在宅	地域	母性	小児	成人	老人	精神	在宅	地域
		看護技術項目																	
		バイタルサイン																	
		身体計測																	
		症状・病態の観察																	
		安楽な体位																	
		身体安楽促進ケア																	
		療養生活環境調整																	
		とのえる																	
		ベッドメーキング																	
日常生活援助技術	清潔への援助	安全管理の技術																	
		リネン交換																	
		療養生活の安全確保																	
		転倒・転落・外傷予防																	
		医療事故予防・リスクマネジメント																	
		スタンダードプリコーション																	
		洗浄・消毒・滅菌																	
		無菌操作																	
		医療廃棄物管理																	
		歩行介助・移動の介助																	
日常生活援助技術	運動・休息のバランスをとる	移送																	
		関節可動域訓練(運動機能の維持回復)																	
		廃用性症候群予防																	
		体位変換																	
		入眠・睡眠の援助																	
		安静																	
		術後患者の離床																	
		妊婦・産褥体操																	
		入浴介助 (沐浴含む)																	
		部分浴・陰部ケア																	
日常生活援助技術	食と排泄のバランスをとる援助技術	手浴																	
		足浴																	
		清拭																	
		洗髪																	
		口腔ケア																	
		整容																	
		寝衣交換など衣生活支援																	
		食事介助																	
		授乳介助																	
		経管栄養法																	
日常生活援助技術	自然排泄・排便援助	食生活支援																	
		便器・尿器の使い方																	
		摘便																	
		おむつ交換																	
		失禁ケア																	
		膀胱内留置カテーテルの管理																	
		浣腸																	
		導尿																	
		ストーマ造設者のケア																	

	履修科目	基礎看護方法 (学内演習)										領域別看護方法 (学内演習)	臨地実習Ⅰ	領域別看護方法 (学内演習)										臨地実習Ⅱ					(選択)卒前実習Ⅲ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
		セメスター					母性	小児	成人	老人	精神			在宅	地域	母性	小児	成人	老人	精神	在宅	地域																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		2	4	4	4	5																	5	5	5	5	5	5		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

## 引用文献

- 1) 薄井坦子, 三瓶眞貴子, 山岸仁美, 他: 宮崎県立看護大学における教育課程の構築とその評価, 宮崎県立看護大学研究紀要 Vol.3 No1, 5, 2002.
- 2) 前掲書 1) : 8
- 3) 薄井坦子, 嘉手苺英子, 山本利江, 他: 看護基礎教育における教育課程の評価に関する研究, 宮崎県立看護大学研究紀要 Vol.3 No1, 10-17, 2002.
- 4) 栗原保子: 看護学生の自己評価能力向上のためのネットワーク型CAI<学習支援システム>の開発に関する研究ー自己評価能力向上支援システムの有用性ー, 宮崎県立看護大学研究紀要 Vol.12, No1, 7-25, 2012.
- 5) 薄井坦子監: Module方式による看護方法実習書<第3版>, 1-10, 現代社, 2004.
- 6) 薄井坦子: 何がなぜ看護の情報なのか, 日本看護協会出版会, 1992.
- 7) 薄井坦子: 科学的看護論 第3版, 日本看護協会出版会, 1997.
- 8) 前掲書 5)
- 9) 前掲書 5)
- 10) 薄井坦子編: ナイチンゲール言葉集, 21, 現代社, 1995.
- 11) 宮崎美砂子, 山本利江: 学士課程看護基礎教育のカリキュラム改革, 千葉大学看護学部紀要 第29号, 49-54, 2007.
- 12) 坂上明子, 谷本真理子, 増島麻里子, 他: 看護実践能力自己評価ポートフォリオの改訂に向けた取り組み, 千葉大学大学院看護学研究科紀要 第35号, 15-20, 2013.
- 13) 小山眞理子, 加納佳代子, 水戸優子, 他: 第1回 看護技術教育の教授・学習目標の枠組み, 看護教育, Vol.51. No.9, 800-806, 2010.
- 14) 水戸優子, 登喜和江, 大石朋子, 他: 第3回 看護技術教育の評価基準(案)の学内演習での活用例, 看護教育, Vol.51. No.11, 990-996, 2010.
- 15) 加納佳代子, 小山眞理子, 水戸優子, 他: 第4回【最終回】「看護技術教育の評価基準(案)」の実習での活用例, Vol.51. No.12, 1092-1097, 2010.
- 16) 岩田みどり, 本間千代子, 丹波淳子, 他: 卒業前の統合実技試験プログラムの効果と課題, 日本赤十字武蔵野短期大学紀要 第20号, 37-41, 2007.
- 17) 青柳直樹, 齋藤和子: 精神看護学領域における基礎看護技術教育の現状と課題ー技術項目到達度表の分析からー, 群馬バース大学紀要 No10, 93-100, 2010.
- 18) フローレンス・ナイチンゲール著, 薄井坦子, 田村真, 小玉香津子訳: 病人の看護と健康を守る看護, ナイチンゲール著作集第2巻, 128-130, 現代社, 1974.
- 19) 前掲書 5) まえがき-3

## Activity Report

### Improving Students' Basic Nursing Techniques: A Project to Build a Portfolio for Students' Self-evaluations

Hiromi Ogasawara, Kumi Terashima, Hitomi Yamagishi, Nahomi Hashiguchi, Miyuki Yamaoka,  
Sayori Iki, Suzue Kai, Mamiko Hidaka, Chikako Takao, Yumiko Nakahara, Yasuko Kurihara

**【Key words】** nursing techniques, portfolio, self-evaluation, goal setting, nursing practice capability

---

Hiromi Ogasawara, Kumi Terashima, Hitomi Yamagishi, Nahomi Hashiguchi, Miyuki Yamaoka,  
Sayori Iki, Suzue Kai, Mamiko Hidaka, Chikako Takao,  
Yasuko Kurihara : Miyazaki Prefectural Nursing University  
Yumiko Nakahara : Miyazaki Prefectural Miyazaki Hospital